



# 3月 園だより

名島保育園 園長 林田睦子

2021. 3. 1

Aさんは、卒園まであと1ヶ月となりました。子ども達の自分達で考えて行動する姿に卒園後、大きく羽ばたいていくことが目に見える様です。とても楽しみです☆

来年度もお子様の心と身体が、健やかに成長出来るように職員一同、精一杯お手伝いさせていただきます。よろしくお願い致します。

## 3月の行事

2日[火] ひなまつり

お茶会

6日[土] 子育て支援会

13日[土] クッキング教室

吉村春生先生

講演会

11日[木] お別れ散歩

(ABさんのみ)

20日[土] 春分の日(祝日)

18日[木] お別れ会

\* Aさんが職員・子ども達に

おやつを振舞います。

31日[土] 卒園の会

(証書渡し)

## 3月の一口メモ

【ひなまつり】——3月3日。

「弥生の節句」ともいい、平安時代の書物にも「ひいなあそび」の記述がある。川で心身のけがれを清める昔からの風習を人形に身代わりさせるようになり、やがて飾り雛になった。今のような形式は江戸時代初期から。

【<sup>けいちつ</sup>啓蟄】——3月6日頃。

啓は開く、蟄は土の中の虫を意味し、冬ごもりをしていた虫が地上に出る日とされる。この頃になると日差しもやわらぎ、春の訪れを感じるようになる。

【人類初の宇宙遊泳】——3月18日。

1965年のこの日、旧ソ連のレオノフ中佐が宇宙船の外へ出て、命綱一本を頼りに10分間の遊泳をした。

【春分の日】——太陽が赤道の真上を通り、昼と夜の長さが同じになる。「彼岸の中日」とも呼び、この日はさむ1週間が春の彼岸。

# 《 お知らせ・お願い 》

## 卒園の会（証書渡し）について

証書渡しの在り方について、どのような形が子ども達にとって良いのか、保護者の方の意見をどう受け止めるのかなど職員で話し合いました。

詳細は別紙にて配布しますプリントをご覧ください。

Aさんの保育は、3月31日までです。

## お別れ散歩について（2Fクラス対象）

3月11日(木)に Aさん、Bさんでお別れ散歩へ行きます。お弁当を持って来て下さい。

場所は名島城址公園です。天候が悪い場合は、保育園でお弁当を食べます。

Cさん、D(2歳児)さんは保育園でお弁当を食べます。忘れずに準備をお願い致します。

1階クラスの子どもさんは通常通り給食があります。

## 3月は移行の準備期間です。ご協力をお願い致します。

子ども達が4月からの保育園生活でスムーズに移行ができるように、各クラスの職員の移動も少しずつ行っていますのでご理解をお願いします。

## 4月からの担任体勢

つき組 平島淳子    ほし組 山口恭子    はな組 中原裕美子

うみ組 深浦麻衣    にじ組 大坪ちひろ    そら組 増野里央

## 今年度で退職する職員です。

龍 千恵美            (保育士)            川井 真希            (保育士)

高山 みずき            (保育士)            笠 舞香              (保育士)

竹嶋 花織              (保育士)

「ムソー」「オーサワ」自然食品を扱っておられる会社の商品を保育園から割引価格で購入することが出来ます。注文されてみたい方は事務所までどうぞ(^\_^)

## ●6～12歳はどんな時期？

### 【知識をぐんぐん吸収する時期です】

「児童期」の子どもは、新しいことを知りたい気持ちが強く、知識欲が旺盛です。大人なら苦勞して覚え込まなくてはならないことでも、興味をもてば苦もなく覚えてしまいます。知らなかった物事を知ること自体が、彼ら、彼女らにとっては喜びなのです。

「幼年期」に積み上げた土台の上に立って、知識をぐんぐん吸収しはじめるこの時期は、0歳から成人までの人間の発達段階の中でも、安定して充実した一時期といえます。

実際に経験したことをもとに、**抽象的な話を理解したり、目の前にはないもののことをイメージしたりできるようになるのも「児童期」の特長**。感覚を通して感じることが世界のすべてである「幼児期」とは、ここが大きく違うところです。

「太陽は小さく見えるけれど、本当は地球より太陽のほうが100万倍も大きいのだよ」と話しても、3歳児には理解できません。でも、「児童期」になれば、自分が今いる地球よりはるかに大きい太陽の姿を想像できるようになります。ずっと遠くにあるもの、目に見えないほど小さいけれど確かにあるもの、あるいは過去に実際に起きたこと、それらをありありと想像し、そのイメージを楽しむようになるのです。

「児童期」の子どもが抱くイメージのもとになるのは、これまでに蓄積してきた実体験です。身体を動かし、五感を通して得てきた経験が豊かであれば、抱けるイメージも、よりしっかりしたものになります。

「幼年期」が畑を耕す時期だとすれば、「**児童期**」はその**土壌にたくさんの興味の種をまき、芽生えを促していく時期だといえるでしょう**。

## ●子どもが変わるのは、親が変わるとき

私たちの園の子どもたちを見ていて、「この子は入園してから変わったな。成長したな」と感じる場合があります。「この子はなぜこんなに変わったのだろう」と見てみると、実は親が変わっていた、ということが多いものです。

子どもの行動に困っていた親が、「この子はこれをやりたいんだ」と子どもの見方を変えていたり、園での教師のやり方をヒントにして、子どもへの対応をかえていたり……。そんなふうに親が変わると、その変化を映すように子どもが変わっていきます。親子関係の歯車が、良い方向に回り始めるのです。

子どもが成長するとき、その背後には親の成長があります。親になるということは、人間として成長するチャンスをもらうことなのだと思います。

「良き援助者」であろうと努めるのはエネルギーのいることですが、その努力は子どものためだけでなく、親自身の人生を実りあるものにしてくれます。

『自分で考えて生きる力が育つ12歳までのモンテッソーリ子育て』

野村 緑 著 参照

名島保育園では、保育参加や講演会で、マクロビオティックやモンテッソーリ教育のヒントをお配りしています。

一度立ち止まって、子育てを考える機会として頂けると嬉しいです。

